



3 年次 (8 期生) 進路速報

3 学年主任 大高 直樹

8 期生も卒業までいよいよ 2 ヶ月ほどとなりました。1 年次から「産業社会と人間」の授業などで学び、そして 2 年次・3 年次と考えてきた卒業後の進路についても、多くの生徒が現在までに方向性を決めることができました。今年度は、世間一般に言われているごとく、経済状況の悪化もあって、就職希望者には超氷河期と呼ばれる厳しい年になりましたが、それでも真剣に就職研究・活動している生徒のほとんどは、しっかりと内定を得て結果を出していると言えます。進学希望者も、その大半は推薦入試や A O 入試などで進学先を決定していますが、センター試験や一般入試を受ける生徒も最後の追い込みに励んでいるところです。以下、1 2 月 3 日現在の進学・就職内定先について概要を掲載します。(人数は複数の場合あり)

【大学】 関東学園大学(営)、共愛学園前橋国際大学(国際社会)、共栄大学(国際経営)、桐生大学(医療保健)、埼玉学園大学(営・経)、城西大学(経)、駿河台大学(現代文化)、大東文化大学(外国語)、千葉科学大学(薬)、帝京大学(理工)、東京福祉大学(心理)、日本薬科大学(薬)、白鷗大学(教育・法・営)、群馬社会福祉大学(社会福祉)、高崎健康福祉大学(健康栄養)、文教大学(文)

【短大】 足利短期大学(看護・こども)、宇都宮短期大学(音楽)、桐生短期大学(アートデザイン)、群馬社会福祉大学短期大学部(介護福祉)、埼玉純真短期大学(こども)、埼玉女子短期大学(商)、佐野短期大学(総合キャリア教育)、高崎健康福祉大学短期大学部(児童福祉)、東京福祉短期大学(こども)、武蔵丘短期大学(健康生活)

【専門学校】 足利介護福祉(介護福祉)、足利市医師会付属准看護学校、足利デザイン & ビューティー(トータルビューティー・ビジュアルデザイン・美容総合・ファッションデザイン)、足利福祉、アミューズメントメディア総合学院(声優アーティスト)、大泉保育福祉(保育)、太田医療技術(救急救命・歯科衛生・理学療法)、太田情報商科(保育・医療秘書・C A D・ゲームクリエイタ)、太田動物、太田高等看護学院、大原法律公務員(法律)、群馬法科ビジネス(行政ビジネス)、国際テクニカル調理師(調理経営)、国際テクニカル美容(トータルビューティー)、国際テクニカルデザイン(まんがデザイン)、国際ファッションビューティー(ファッションクリエイト)、埼玉福祉(児童福祉)、館林高等看護学院、中央医療歯科(歯科衛生士)、東京ビジュアルアーツ(ミュージシャン)、東京ダンス & アクトーズ、東京ベルエポック美容(トータルビューティー・美容)、東放学園音響(音響技術)、東放学園(照明クリエイティブ・放送芸術)、東萌ビューティーカレッジ(美容)、栃木県立衛生福祉大学校、栃木県農業大学校、栃木県県南高等看護、日本医科学衛生福祉(看護)、東群馬看護、ビジョナリーアーツ(ペット)、群馬医療事務学院、前橋医療福祉(理学療法)、マロニエ医療福祉(看護)、山野美容(美容)、ロイヤルブルーミングスクール(トリマー)

【就職】 J A 足利、野中工業所、今井病院、赤石工業(株)、竹内産業(株)、鈴木葬儀社、(株)スコープ、(株)大嶋電機製作所、両毛クリニック、富士重工業(株)、(株)ミツパロジマティックス、ニプロ医工(株)、群馬河西(株)、わたなべ整形外科、阪和工材(株)

修学旅行

2 学年主任 塚越 晃

1 0 月 2 日(金)から 1 0 月 5 日(月)、3 泊 4 日の日程で沖縄への修学旅行に行ってきました。今年は新型インフルエンザの流行があり、中止もあり得るのではと心配しましたが、参加予定者全員が元気に出発することができました。

初日はバス、飛行機の移動が主で、見学は万座毛のみでした。天気もよく、素晴らしい沖縄の海が私たちを迎えてくれました。

二日目は、午前中は各自の希望によるマリンスポーツです。台風接近の影響で天候悪化が心配されましたが、何とか実施できました。ただ、風が強いということで場所と内容の一部が変更となりました。それでも沖縄での海でのマリンスポーツに生徒たちは大満足でした。

午後は美ら海水族館です。人気のジンベイザメ、マンタの前では多くの生徒が記念撮影をしていました。またイルカのショーでも本校生徒の歓声が響いていました。

三日目は、平和学習です。南部戦跡の見学です。昨夜からの雨が降っていて、雨の中での見学を覚悟していましたが、バスが南部に移動すると、奇跡的に雨の地域を抜け、晴天が広がっていました。

ガマ体験、ひめゆりの塔と平和記念資料館の見学などでは戦争の悲惨さを学びあらためて平和の尊さを実感することができました。特に、生徒たちと同じ年の少女たちの悲劇は生徒の心に強く訴えかけたようです。

夕方からは国際通りの散策と夕食です。家族や知人への買い物を袋いっぱい買い込み、沖縄の食事を満喫したようです。この時は雨に降られ、濡れた生徒もいましたが、楽しい時間を過ごしたようです。

最終日は世界遺産でもある朱礼門のある首里城公園の見学です。前の晩の雨もあがり、快晴の中で見学することができました。

こうして、旅行日程をほぼ予定通り終了することができました。心配された天候にも恵まれ、新型インフルエンザに罹る生徒もいませんでした。



{ マリンスポーツ }



{ 美ら海水族館 }

スクールインターンシップに行って

1 年 2 組 青木 彩野

私は、1 0 月 2 日のスクールインターンシップで晃陽看護専門学校に行きました。

この学校は、大きく分けて 2 つの分野があります。一つ目は、「食」に関する学科で栄養士学科や調理師学科などがあり、二つ目は、「医」に関する学科で看護学科や救急救命学科があります。

「食」の体験では、各学科の説明を聞いたり、別館に移動して製菓製パン衛生学科の作品を見たりしました。レストラン & ベーカリー「パンとマイム」という学生が現場実習で使うために建てられたお店に、この学科の学生が作ったパンが売ってあったりしてすごくおいしそうでした。別館やお店を見学したあと本館に戻って調理実習をしました。調理師学科の先生のご指導のもと、スコーンの実習と巨峰のゼリーの試食をしました。分量などはすべて準備してあったので生地を作ったり型抜きをしたりしました。思ったよりも短時間でとても簡単に作れたし、皆と楽しく作ることができたので良かったです。

「医」の体験では、初めに看護学科の部屋に行き聴診器を使って喘息の人の肺の音や赤ちゃんの心臓の音を聴いたりしました。本物の人間そっくりのダミー人形が相手で、見た感じ少し怖かったけど、初めてちゃんとした肺や心臓の音を聴いてとても感動しました。

救急救命士学科では、指圧止血法や A E D の使い方、心臓マッサージのやり方を体験しました。この三つの中で一番やりがいを感じたのは、心臓マッサージです。どこに手をあてるかとか、何回心臓マッサージをしたら人工呼吸をするかなどダミー人形を使いながら一人一人指導してもらいました。知っていて損はないことだと思ったので体験できてよかったと思いました。まだ進路がはっきり決まっていけないので、このような貴重な体験を生かして自分にあった進路を見つけていきたいです。



{ 医 }



{ 食 }

第10回足南高ハーフマラソン大会

保健体育科 阿部 雄太

「男女成績」

1位	3 - 1	花岡 愛美	1 : 3 0 : 1 9	3 - 2	長野 友紀	1 : 1 5 : 2 4
2位	3 - 4	高崎 志保	1 : 3 9 : 3 2	3 - 4	寺崎 達矢	1 : 1 9 : 4 4
3位	1 - 1	笠原 星来	1 : 4 7 : 2 5	3 - 1	新里 直斗	1 : 2 9 : 5 3
4位	3 - 4	深野 冴香	1 : 5 1 : 2 2	3 - 3	藤倉 俊一	1 : 3 2 : 0 8
5位	2 - 1	牧口 憂香	1 : 5 4 : 2 4	3 - 5	飯野 良祐	1 : 3 2 : 4 2
6位	2 - 2	中島 麻佑	2 : 0 1 : 1 5	2 - 5	中島 貴太	1 : 3 3 : 0 3
7位	3 - 3	青木 渚	2 : 0 3 : 5 3	1 - 5	山崎 裕也	1 : 3 3 : 0 9
8位	3 - 2	吉田 紫織	2 : 0 3 : 5 3	1 - 1	小堀 淳	1 : 3 4 : 2 5
9位	2 - 2	窪 梨恵子	2 : 0 4 : 2 0	2 - 5	富澤 大地	1 : 3 4 : 4 3
10位	3 - 4	河内 唯	2 : 0 7 : 1 7	1 - 4	笠原 康人	1 : 3 5 : 0 0

全参加者の平均タイムは3 : 2 1 : 3 9でした。

11月13日（金）に行われた第10回足南高ハーフマラソン大会は連日の悪天候やインフルエンザの流行により開催が危ぶまれましたが、当日は走る生徒にとって絶好のコンディションで男女とも優勝者は大会歴代2位の好タイムで走破し、活気のある大会となりました。

また、PTA会長をはじめ今年は69名もの保護者の方々のお手伝いをいただき、大きな事故もなく無事大会を成功させることができました。ご家庭ではなかなか見せない子供達の元気な姿がご覧いただけたのではないかと思います。

マラソンは時に人生にたとえられることがあります。みなさんそれぞれに人生の夢があり、その夢を叶えるために今一生懸命頑張っているはずです。これから的人生において、辛く苦しいことを何度となく経験するはずです。その時は頑張っ乗り越えなくてはなりません。今回のマラソンも人それぞれに辛く苦しかったはずです。しかし、このマラソンを乗り切ったことでものすごい充実感・達成感を味わったでしょう。まさに人生も同じものです。さらに、みなさんが頑張っている姿は感動を呼びます。この経験を活かし、みなさんが夢を叶えることを期待しています。



「留学生より」

「My Japanese Experience」

Hugh Davis

After having lived in Japan as an exchange student for over six months, I have learnt more than just the Japanese language and way of life. I have learnt things which cannot be studied or taught, things such as how to be independent and confident. These traits being learned purely through the experience of being an exchange student.

Being a foreigner in Japan, I have lots of different types of people wanting to talk to me, even though talking to strangers is something I couldn't be worse at (even when it's in English.) At the start of my stay I found it really difficult but as my language abilities grew so did my confidence. I soon became used to making conversation with complete strangers and was something which became easier and easier. I now have the confidence to walk in a shop and have a conversation with the shop keeper or talk to an old man in the street. Something I definitely would not have been able to do back in Australia. Without this growth of confidence I would not have been able to improve in other areas such as independence.

As I became a more confident person, I was able to build my independence to an unforeseen level. While at the start of my stay I relied on a lot of help from my teachers and host family but that was something which soon changed. When people became more and more unwilling to help me I had to start helping myself. Things which may be simple of a native but are very daunting for a foreigner for the first time. This independence has built up over time to a stage where I no longer have to ask for help and can solve things without anybody knowing there was even a problem.

These traits, confidents and independents are just a small bit of what I have learned but are very important. They are something I can take back to Australia to use in everyday life and can help to create a successful future.

「日本に来て、思うこと」

ヒュー デイビス

6ヶ月以上日本にいる留学生として、日本語と日本の生活を学んだばかりではなく、自信がついて、自立した人になってきました。このことは勉強して、学ぶことではありません。このことを日本にいることによって、学べました。

外国人として、色々ぼくと話したい人が多いけれども、知らない人と話すことは英語でも日本語でもぼくはにがてです。たいざいの始めにそのことは本当にむずかしかったですが、ぼくの日本語の能力が上がってきて、自信も増えてきました。知らない人と話すのにすぐ慣れました。今、お店に行ったら、店員と会話がすぐできるし、色々会う人とも話せます。前にはそんなことができませんでした。

自信がついていると同時にぼくの自立心が思いがけないレベルにあがってきました。さいしょには、ぼくの先生とホストファミリーの色々なてつだいは本当にひつようだったけど、それはすぐ変わりました。みんなはぼくのことをてつだいたくなくなってきた時、ぼくは色々もんだいを自分でかいけつしなければなりません。日本人として、かんたんなことですが、はじめての外国人にはかなりむずかしいです。それで、ぼくの自立心がおねがいしなくてもいいレベルにあがってきました。

これらのことは全部学んだことではないですが、一番たいせつなことです。これらのことをオーストラリアに持っかえって、ふつうの生活で使って、せいこうなしょうらいを作れます。(本人自筆)

「HEJ! (こんにちは)」

Carolina Luciani

First of I just want to tell you how happy I am to be here. I thought I was coming here in august but due to some problems, We couldn't travel until a month later, which was late in September. Because of all the waiting, I still can't believe I'm finally in Japan. From time to time I find myself thinking "Wow, you are in Japan! Unbelievable", it's a nice feeling.

To be honest, I don't really know why I choose to come to Japan. I wanted to travel somewhere and experience how it is like for other teenagers around the world. I wanted to experience common things, like doing chores, hang out with friends etc etc.

At first I was thinking of going to America, but I've got two friends who have already been going. Then I thought of Australia. I can get around with my English, so the language wouldn't have been a problem.

But I've always have had a dream of coming to Japan. At first I was afraid to come here because of the language that I can not speak. But my mum said to me that if I anyways was going to push my limits, why not push them to the extreme. And I couldn't do other than to agree. So my dream came true, and here I am! I don't know why I had this dream of coming to Japan, but I have fulfilled it, and of that I am really happy.

「HEJ! こんにちは」

キャロリナ ルシアニ

私は日本にいます。だから私はうれしい。8月に日本にくるとおもいましたが、もんだいがありました。だから私は九月にきました。日本にいることを、まだしんじていません。ときどき私は、ほんとに日本にいることをおもいだしていいきもちです。なんで日本にきめたか、わかりません。どこかにいきたかった。それと、ほかのがくせいのせいかつを見たかった。ホーストファミリーのお母さんをだいどころでてつだいたかったし、ともだちとあそびたかったし、ふつうのことをしたかった。まえに私はアメリカにいきたかった。でも、アメリカのことをたくさんしっていましたので、アメリカはおもしろくないとおもいました。えいごがよくわかりましたので、ホーストラリアにいくとおもいました。はじめに日本語がわかりませんが、こわかったが、私のお母さんが私にいいました。「どうせなら、おおきなちょうせんをしてみたら?」とかたをおしてくれました。

けっきょく、お母さんのアドバイスをきいて日本にいくことにしました。私のゆめがほんとうになり、日本にいます。なんで、このゆめをもっていたかわかりません。でも、できました。私はとてもうれしいです。(本人自筆)